巻　頭　言

松井　繁

はじめに、日本白鳥の会の創立20周年記念号を早く出す予定であったが、諸般の事情で今日まで遅れたことをお詫びし、記念誌及び平成5～7年の合併号　No.19，20，21号とする事をご了承下さるようお願いするものである。

昭和55年の札幌におけるＩＷＲＢの代表者会議、白鳥、鶴の国際シンポジウムから16年たった。この年にラムサール条約の批准、ＩＷＲＢへの国としての加盟が決まり、我が会の設立目的の半分が達成されたわけである。ついで各国との渡り鳥条約も締結されてきた。当時我が国の鳥類保護に関する程度は13才といわれていた事を思い出している。

このたび、ＩＷＲＢが国際湿地保全連合（WETLANDS INTERNATIONAL）、ＩＷＲＢ日本委員会は国際湿地保全連合日本委員会（WETLANDS INTERNATIONAL JAPAN）と改称した。

この所、会誌の発行が遅れ、会の活動が沈滞してしまい、定時定点観察の報告も遅れていたが、今回で遅れを取り戻した。これからは会員の皆さんの一層のご協力を得て、遅れない様にしたいと考えている。

1990年から1999年にかけて日本野鳥の会ではＮＴＴと共同開発した白鳥に対する電波標識をオオハク、コハクに装着し、成果を上げている（後述）。けれども、越冬地であるクッチャロ湖、小湊での着標であるので、今後は繁殖地での着標をするべきであるが、これには我が会も参加しなければと考えている。

最後に会員の皆さんが益々ご健勝で、白鳥の保護、観察、研究に励まれる事を希望するものである。